

319号
2024年
1月

日赤みやぎ



▲竣工式でのテープカットの様子

新年のご挨拶（令和6年）

明けましておめでとうございます。県民の皆様には、日頃から赤十字の活動に
対しご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことに伴い、社会生活と
同様に赤十字の活動も皆様と直接お会いして取り組めるようになり、大変喜ば
しい限りです。

宮城県支部では、災害救護やボランティア活動の拠点となる新社屋兼ロジス
ティクスセンターを仙台市泉区市名坂に整備し、昨年10月に移転しました。災害
救護活動はもちろん、救急法等の講習やボランティア活動など、県内の赤十字
活動の拠点として、皆様の期待に応えられるよう取り組んでまいります。

トルコ・シリア地震、ウクライナやイスラエル・ガザ人道危機への支援など、世
界中の人々を救う国際活動も赤十字の重要な役割のひとつです。「人間のいの
ちと健康、尊厳を守る」赤十字の使命とその活動に対する期待は、ますます高
まっています。人道の実現のために、今後とも皆様のお力添えを賜りますようお
願い申し上げます。



日本赤十字社宮城県支部
支部長 **村井 嘉浩**

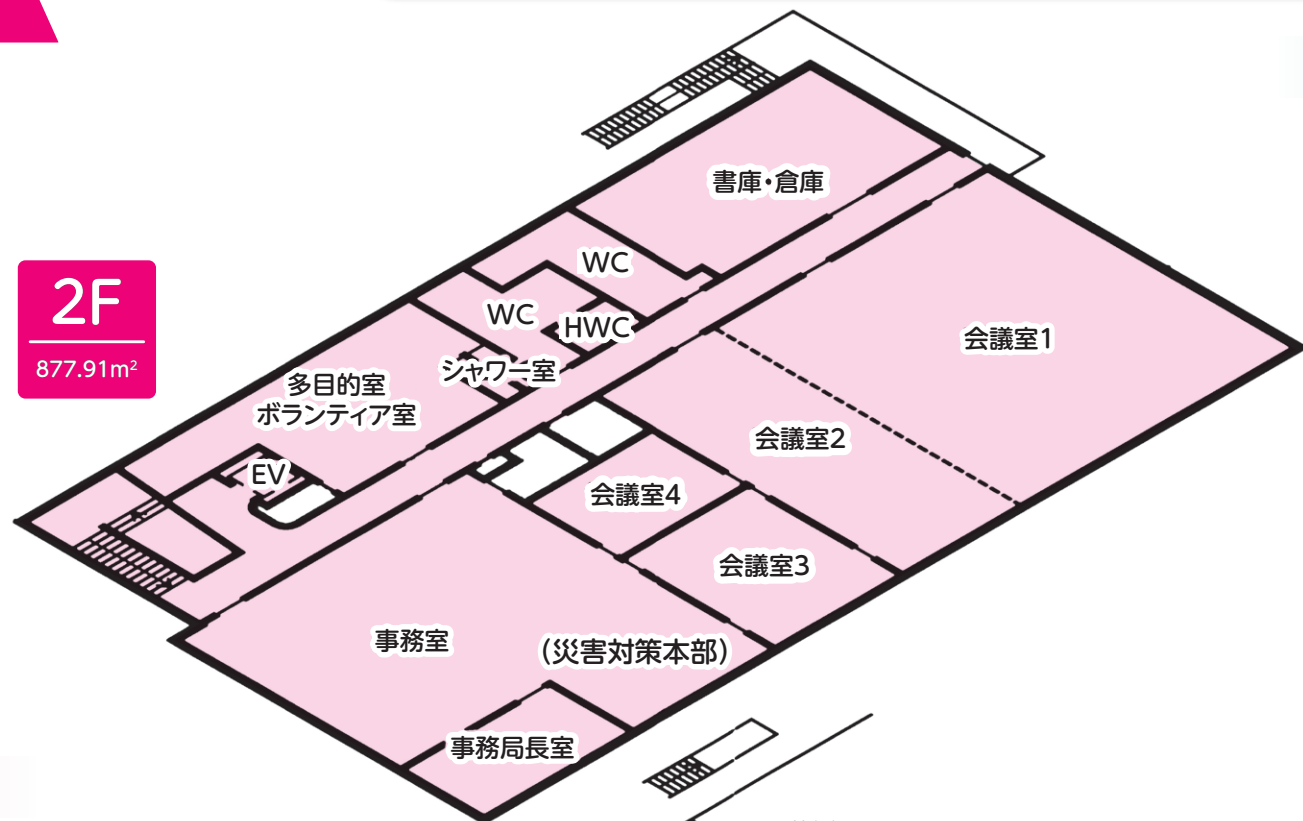
宮城県支部が 移転しました!



今回は、令和5年10月より仙台市泉区市名坂へ移転した宮城県支部の新社屋についてご紹介します!
東日本大震災の際、当時の社屋は停電をはじめ活動の支障となる被害を受け、全国からの医療救護班や救援物資のスムーズな受入に課題を残しました。
新社屋は宮城県、そして北海道・東北地区での災害時に活動拠点として機能するよう整備し、全館バリアフリーの使う人にやさしい施設となっています。
職員一同、気持ちを新たに邁進してまいりますので、これからも赤十字事業に対するご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

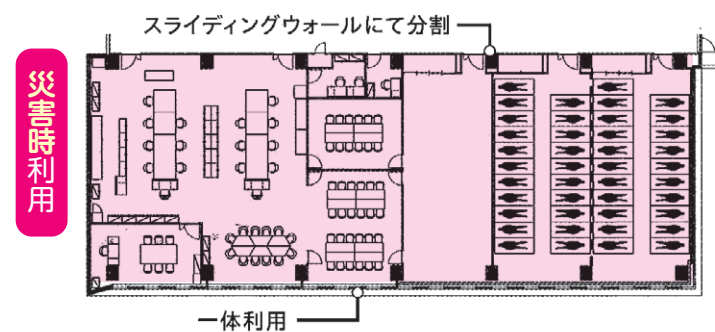
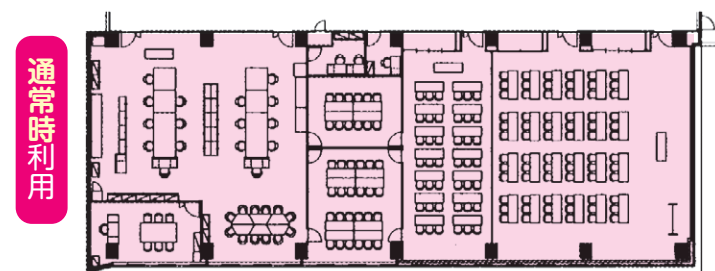


建物正面(北側)



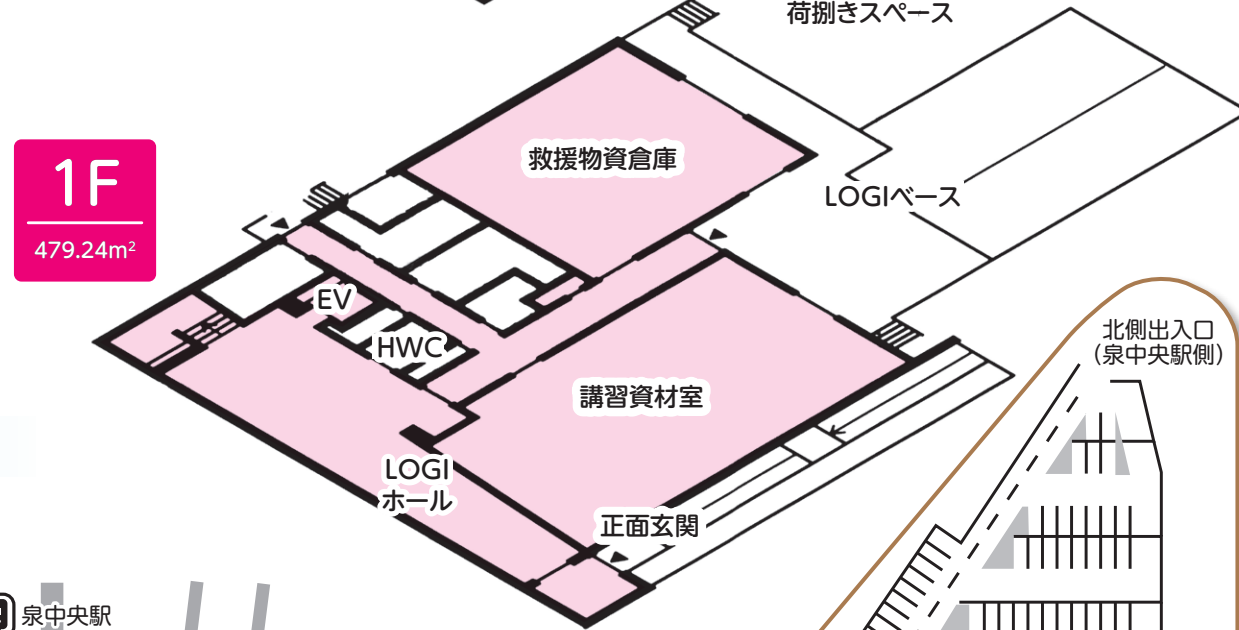
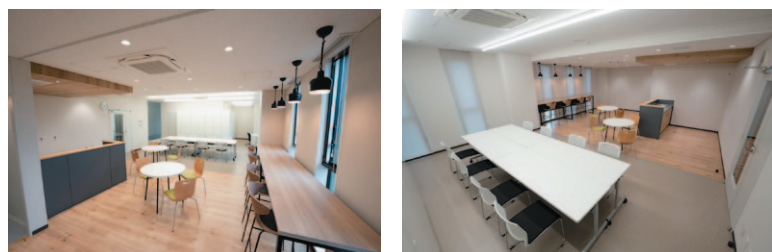
事務局・会議室

事務局に災害対策本部スペースを備えて円滑な本部運営を実現し、会議室との一体利用を可能にして大規模災害に備えています。



多目的室・ボランティア室

普段はボランティアの活動スペースなどとして、災害時には救護員の休憩場所として利用します。災害時にも利用できるシャワーやミニキッチンを整備しています。



救援物資倉庫・荷捌きスペース

3トラック1台分の救援物資を備蓄できる救援物資倉庫は、台車等の利用に配慮し、迅速かつ安全な搬出が可能です。



講習資材室・LOGIベース

赤十字講習で使う資材の保管・点検を行います。屋根下になっているLOGIベースは講習資材室出入口まで車両を引き込むことが可能です。

駐車場

約50台の車を駐車することができる駐車場スペースには水栓や耐火れんがを設置し、炊き出し訓練に対応しています。

その他災害に備えた機能

- 自家発電設備
- 無線設備
- 給水設備
- かさ上げによる浸水対策
- 衛星電話



アクセス

仙台市地下鉄南北線「泉中央駅」より 徒歩約17分
仙台市地下鉄南北線「八乙女駅」より 徒歩約12分



正面玄関はこちらです!

宮城県内施設のトピックス



仙台赤十字病院

4年ぶりに中学生の職場体験を受け入れました!



▲救急車両の見学や無線の体験も行いました

新型コロナウイルス感染症の制限が緩和され、中学生の職場体験学習の受け入れを再開しました。今年度は仙台市内の4つの中学校から生徒を受け入れました。検査部での採血体験、救急車の試乗体験、リハビリテーションの体験などを通じて、病院の業務を体験いただきました。どの生徒も、「普段は入ることができない病院の裏側や、知らなかった職種を知ることができた」など、楽しんで学んでいるようでした。当院での体験が、将来の進路を選ぶ際の一助となることを願っています。



▶放射線科で検査に使用する機械を体験

石巻赤十字病院

大規模災害に備えて訓練

11月18日、職員の防災意識の高揚と災害対策マニュアルの検証を目的として、大規模地震が発生したという想定で「大規模災害実働訓練」を実施しました。コロナ禍では限定した診療エリアのみでの訓練でしたが、今年度は4年ぶりに全ての診療エリアを開設して実施し、総勢約420名の職員と関係者が参加しました。



▲傷病者の症状や状態を診ながら治療の優先度を決めるトリアージスタッフ

訓練は、実災害に近い形で行うため事前の資機材等の準備は一切なく、参加者は発災後から災害対策マニュアルやアクションカード(行動を促すための指示書)をもとに、各エリアの立ち上げや役割分担、トリアージタグの運用について検証しました。

訓練後はエリアごとに反省会を行い、「備品が足りなかった」、「人員が足りない時の応援体制はどうするか」など、より具体的な課題が抽出されました。

※トリアージ…多数の傷病者が発生した場合に、緊急度や重傷度に応じて治療優先度を定めること



▲重症患者を担当する赤エリアには、次々に模擬患者が搬送されてきます

宮城県赤十字血液センター

インフルエンサー「カシスオレンジ」さんが献血推進ガールに就任!



▲血液センター所長から委嘱状を手渡しました。

10月23日、仙台を拠点にインフルエンサーとして活動しTikTokで有名な「カシスオレンジ」さんが、若者の献血離れを食い止め、多くの方に献血の大切さを伝えるため、宮城県献血推進ガールに就任しました。

早速、学校やお祭り会場で活動をしていただき、献血への協力を募っていただきました。

引き続き血液センターが企画するイベントや献血セミナーに参加して、若い世代を中心に献血へのご理解とご協力を呼びかけます。



宮城県支部のトピックス



7道県の救護班が石巻に集結!~合同災害訓練~

10月20日、21日の2日間、「第1ブロック(北海道・東北)支部合同災害救護訓練」を石巻赤十字病院で実施しました。

この訓練は、第1ブロック各道県の輪番制で行っており、宮城県での実施は平成24年以来11年ぶりです。

日本赤十字社では災害関連死ゼロを目指しており、今回は発災2日後の想定で、県外から派遣されてきた救護班が地元自治体や保健師と協力して、避難所の状況をアセスメント(調査)し、対応する訓練を実施しました。

被災者役は看護学生が務め、演技をしながらも救護班によるケアを学んでいました。

また、宮城県支部と宮城キッチンカー協会との「避難所における食生活の改善を目的とした協定」に基づき、参加者に温かくておいしい食事を提供し、配膳には麗人会赤十字奉仕団の皆様にもご協力いただきました。



▲関係機関と協力してアセスメント中



▲訓練後ハンバーグ弁当を提供

児童館で世代間交流~楽しく学ぶ赤十字~

11月8日、仙台市西多賀赤十字奉仕団が西多賀児童館との共同企画として、児童館に通う子どもたちにクイズなどのゲームを通じて「思いやり」や「助け合い」の心を伝える「楽しく学ぶ赤十字」を実施しました。

小学校2年生~6年生約40名が学年混合の6チームに分かれ、西多賀市民センターのホールや会議室に設けた6つのゲーム(クイズ・思いやりのポーズで写真撮影・目隠し迷路・お絵描きリレー・フラフープ・救援物資を運ぼう)に協力して挑戦しました。

子どもたちから「みんなで一緒にいろんなゲームができて楽しかった。赤十字には苦しんでいる人を救いたいという意味があるんだね。」という声があり、西多賀赤十字奉仕団の参加者からも「楽しく生き生きとゲームに挑戦する子どもたちから元気ももらえた。活発に意見を出し合ったり、チームの仲間と協力している姿が見られて良かった。」という感想が聞かれました。

宮城県支部では、この企画が世代間交流事業のモデルになるよう期待しています。



▲お絵描きリレー



▲目かくし迷路にむけて、わくわくどきどき準備中

インドネシア コミュニティ防災強化事業

日赤本社が、インドネシア共和国中部のジャワ州ケブメン地方で実施している地域コミュニティおよび防災教育の強化事業に、9月29日から10月7日まで宮城県支部から職員を派遣しました。

現地では各村で防災ボランティアが使用している資器材を確認、日赤で実施しているけが人の搬送方法等について共有しました。

また、学校防災を教えている先生に、東日本大震災の被害やその後の日赤の防災教育について講義し、津波を正しく怖がり、より遠く高い所へ避難することが大切であることを伝えました。



▲支援校での講演



▲防災教育を行う先生たちと

岩手県の有功会員と交流

11月7日、岩手県支部の赤十字有功会連合会が宮城県支部の新社屋を訪問し、宮城県赤十字有功会役員と交流しました。

各々の活動内容を紹介し合うと、活発に意見が飛び交い、お互い今後の事業のアイデアを吸収できる大変有意義な時間となりました。

また、社屋を見学したほか、東日本大震災後に宮城県支部が取り組んだ復興支援事業を紹介する動画の視聴では、皆が真剣な眼差しを向けて聞き入りました。

※赤十字有功会…日本赤十字社有功章を受章された方々の有志で組織される赤十字活動の支援団体です。



おしらせ



コロナ禍で中止していた「赤十字防災ボランティア養成研修」を内容を新たに再開します!

「災害が増えているけど、何をすればいいかわからない」「地域の防災のために何かしたい」「時間ができたからボランティアで体を動かしたい」動機は人それぞれ。一般のボランティアとは一味違う「赤十字防災ボランティア」に登録してみませんか?

新たに登録ご希望の方、既に登録済みの方、老若男女は問いません。参加ご希望の方は、右のQRコードまたはURL、もしくは宮城県支部ホームページからお申し込みください。

皆様の参加をお待ちしております!

【研修①】

- 1.研修名:「登録・スキルアップI研修」
- 2.日 時:令和6年1月14日(日) ※時間は調整中
- 3.場 所:日本赤十字社宮城県支部
会議室1(住所:仙台市泉区市名坂字石止44-7)
- 4.内 容:登録研修…日本赤十字社の紹介、赤十字防災ボランティアとは
スキルアップI研修…登録いただいた方のみ。救急法、こころのケア研修

【研修②】

- 1.研修名:「スキルアップII研修」
- 2.日 時:令和6年2月25日(日) 10:00~15:00
- 3.場 所:日本赤十字社宮城県支部
会議室1および駐車場(住所:同上)
- 4.内 容:テントの立て方、炊き出し釜の使用法、
車両の使用法、支部社屋の使用法等



申込みフォームURL: <https://forms.office.com/r/n8447ywrjb>

お役立ち情報

非常食かんたんレシピ



*** アネちゃんの ***
かんたんどはん帳
Vol.29
干し芋入りおこわ風おにぎり

アネ(牧野純子)
イラストレーター・FCAJ認定フードコーディネーター
仙台市在住 赤十字防災ボランティア
出版社、CM制作会社を経てフリーランスに。著書に
「アネちゃんのごはんいっぱい幸せ」(主婦と生活社)、
「夜にちよこつとココットごはん」(朝日新聞出版)がある。

*** 材料 (2人分・小さめおにぎり4個程度)**

- A**
干し芋…1~2枚(20g程度)
切り餅…1/2個(25g程度)
- B**
無洗米…1合(180ml分・150g)
水…220ml 塩…ひとつまみ

*** 作り方**

1. Aの干し芋、切り餅をそれぞれ1cm角に切る。
※干し芋はキッチン用ハサミを使うと切りやすい
2. 耐熱ポリ袋に無洗米、水を入れる。
3. 2にAを加え、空気を抜いて、できるだけ袋の上の方をゴムバンドでしっかり止める。
4. 鍋にたっぷりの水と3を入れ、沸騰してから30分加熱し、袋を開けて切るように混ぜる。
※ポリ袋破損防止のため鍋底にザルや耐熱皿を入れる
5. 食品OKのポリ手袋、おにぎり用のポリ袋、ラップなどを用いて、おにぎりをにぎり、ごま塩(あれば・分量外)をふりかける。



※写真は倍量(米2合分)のおにぎりです

お正月を過ぎて余りがちな切り餅を、うるち米と一緒に炊きこむと、おこわのようなもちもち食感のごはんに。冬の味覚・干し芋を加えるとほんのり甘くて美味しいおこわ風になって、おにぎりにしてごま塩をふりかけるといくらでも食べられますよ。炊飯器を使ってもできますが、ぜひ耐熱ポリ袋を使ってお試しくださいな。おにぎりを作る時に、何よりも気をつけたいのは、素手で触らないこと。以前、災害時の炊き出しで出されたおにぎりで、食中毒が発生したことから、おにぎりを作って、そのまま個包装もできるポケット状のポリ袋も開発されて、販売されています。※写真奥のおにぎりを包んでいます。日頃から、そうした商品や、ラップ、食品OKの手袋などを、非常食と一緒にストックしておけば、万一の時の衛生管理に役立ちますね。

